

見附市教育センターだより



〒954-0052

見附市学校町2-7-9

電話/Fax 0258-62-2343

E-mail mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp

令和6年1月19日 NO.10

雪をかぶったお地藏様

沖下関石仏・塔群

経験を教訓として生かす ～正常性バイアスを乗り越えて～

見附市中学校校長会 会長 今井 渉



このたびの能登半島地震により、犠牲となられた方々にお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々へ心からお見舞い申し上げます。

昨年の年末に、大雪警報が出された時がありました。市内の学校でも、授業時間をカットする等の対応を取ったところも多かったと思います。雪は思ったほどは降りませんでした。一昨年のようなことにはならず本当にほっとしました。

何日か経って、他市の校長と会う機会があり、予定していた忘年会を行ったかどうかが話題になりました。ある校長が「うちはやったよ。そんなには降らないと思っていたからね」と話していました。

私の学校では、忘年会は中止にしました。駅から離れている会場でしたので、最悪の場合は帰宅できなくなる可能性があると考えたからです。

実際には、忘年会は実施できた夜だったと思います。判断は、いわゆる「空振り」でした。

私は、判断としては間違っていないと考えていましたが、忘年会を中止した当日は、「日ごろから本当に頑張っている職員たちを慰労したかったな。」と思いながら過ごしました。

元日の能登半島地震の際のNHKのアナウンサーの「今すぐ逃げてください」など絶叫調で避難を呼びかけた行動が、SNSで話題になっていました。震災などの異常事態が起こった際、自身の心の平静を保つために「正常性バイアス」という心理が働くと言われていています。13年前の東日本大震災発生時も「正常性バイアス」が働いた結果、「そんなに深刻だと思わなかったから避難しなかった」といった声も多かったといえます。NHKアナウンス部では「異常事態を伝えること」の重要性について、大きな見直しが行われたそうです。今回の呼びかけは、13年前の悲劇を繰り返さないための教訓から生まれたものと言えると思います。

学校の災害への対応は、児童生徒の生死を左右する場合があります。「そんなに深刻だと思わなかった」では済まされません。例え空振りに終わったとしても、過去の経験を教訓とし、最悪の事態を想定した判断や行動をとることが求められます。そのことを常に肝に銘じ、いざという時に備えたいものです。

巻頭写真に寄せて =ここが『かさこじぞう』の舞台なのでは…=

◇巻頭写真を見て、思い出す話はありませんか。「むかしむかし、あるところにじいさまとばあさまが…」で始まる『かさこじぞう』です。このお話は貧乏で大晦日、正月の用意が出来ない老夫婦。そこで、じいさまは笠を作りそれを町に売りに行き、餅を買って来ると出かけますが売れず、その笠を帰り道



雪をかぶった石仏群

地蔵様にかぶせて帰って来ます。ばあさまに話すと「それは良いことをした」と言っても二人は寝てしまいます。すると真夜中に、地蔵様が笠のお礼に、餅や野菜などを持って来てくれたという話です。小2の教科書に載っている、私の大好きな昔話です。
◇さて、写真は下関町の石仏です。『かさこじぞう』の地蔵様は6体ですが、ここには30程の石仏・石塔があります。なぜ、こんなに多くの石仏等があるかわかりますか。それは、平成10年に行われた圃場整備（不整形な農地の区画整形を行ったり、用水路、排水路、農道等を整備する）事業の際に、沖下関集落の旧火葬場や路傍で、移転を余儀なくされたものを集めたものです。石仏は大小の地蔵菩薩・如意輪観音・馬頭観音・庚申塔等と、普通の墓石もあります。如意輪観音は女性のお墓、小さなお地蔵様は子どものお墓、普通のお墓は無縁仏となったお墓だと考えられています。（細かな説明で恐縮です。）
◇雪を頂いた石仏を見て「『かさこじぞう』のようだ」と思えたのですが、石仏が様々な菩薩や観音様等だと知って、人々がその1体1体に願いをかけ、供養をしてきたものだと考えると『かさこじぞう』の6体の地蔵様にも、それぞれに願いがあったものに違いありません。沖下関石仏・塔群は、県道見附分水線の北陸道をくぐり、下関町に入り緩やかなS字のカーブになりますが、その右前方が農村広場で、ここの道沿いにあります。雪のあるこの時期に、ぜひ見て欲しいですし、教材研究になるものと考えます。



コラム = 教師に魅力を感じるドラマをぜひ =

◇私の新年は、友人・知人・恩師・教え子等からの年賀状に添えられた一文を読むことから始まる。今年は私が年を取ったことに加え、これまでコロナ禍生活だったこともあり、「元気ですか」や「どうしているね」が多かったが、現役時、一緒に勤務した人たちからの家族やお子さんたちの写真が今年も何枚もあり、嬉しくなった。教師として子どもたちに、元気と笑顔を与えるには、まずは自分自身の家庭に、元気と笑顔を与えて欲しいと強く願っている。

◇そんな中、私の教育センター勤務を知る恩師から、学生に教職が人気のない（採用試験の倍率低下）ことを「どうなっているのだ」と一言頂いた。これは私に、若い先生方に「授業や学校生活で、教師の魅力を伝えなさい」と活を入れて頂いたものと思っている。教師が人気のない理由は、多忙や長時間労働が大きい。その多忙解消のため、働き方改革が求められ、中学校の部活動指導の地域移行が進められている。見附市は今年度から、卓球とソフトテニスで地域移行が始まった。多忙は、生徒指導対応等も大きい。学習指導要領改訂のたびに打ち出される内容、今回なら「資質・能力の三つの柱」「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラム・マネジメントの推進」等の研修に、多くの時間を取られてはいないか。これは間違いなく大切であるが、子どもたちの実態から出発する授業実践をやり、子どもの変容を見てほしいものだ。

◇多忙の中で、教師が子どものことを語らなくなったと感じていたら、内外教育(R5. 12. 22)に、佐藤学先生が『教室の小さな物語の復権』と題して「今、教室の小さな物語を語り合うことを、すべての教師たちに推奨したい」と述べていた。同じ思いであるが、教師が教務室で子どものことを語り合えば、風通しが良くなり活気あふれる職場となり、職員が元気になれるはずだ。さて、テレビドラマは刑事ものが流行であるが、小中学校が舞台の学園もので、教務室を中心にしたドラマを放映してほしい。教師の仕事が、学生に魅力あるものに見えるに違いない。(こ)

4時から夢塾 「今、求められる思考力・判断力・表現力を育む算数授業」

第14回は12月13日(水)に、新潟大学附属長岡小学校の瀬下真心先生から、今町小4年1組で「算数；式と計算」の示範授業とミニ講座で、数学的な見方・考え方を働かせた授業で、主体性を育むための指導を頂いた。

1 授業の様子「きまりを見つけ、事例収集モデルを使った授業を提案」

- ① 問題提示 …問題答えがオープンエンドになっている問題の提示
- ② 事例収集 …児童に答えを発表させ、それを事例として記録する
- ③ 事例の整理 …事例の式や答えの数値を見て、事例を整理する
- ④ きまりを見つけ…提示された事例の中から「きまり」を見つける
- ⑤ 範囲を探る …見つけたきまりが、他の事例でも成り立つか調べる
- ⑥ きまりの適用…きまりを使い、さらに問題を解き、きまりのよさを感じ得する



瀬下真心先生



T1：「2桁の逆の数ひき算を作って計算してみよう」 手順は次のように行う

- | | | |
|--------------------------|-------------------------------|-----------------------------------|
| (1)好きな2桁の数を作る (同じ数は使えない) | $A \quad B$ | 4 2 |
| (2)十の位の数と一の位の数を入れ替えた数を作る | $\underline{\quad B \quad A}$ | 例えば $\underline{\quad 2 \quad 4}$ |
| (3)大きい方から小さい方を引く | ★ □ | 1 8 |

T2：★の数だけ教えてくれる？ ◎なぜ★の数字がわかると答えが分かるのかな

T3：いつも十の位と一の位をたしたら9になるか確かめよう T4：3桁でもきまりがあるか

2 ミニ講座 「問いを感じた子どもは主体的に動き出す」

- (1)子どもが動き出す4つのズレ…友だちの考え・予想・感覚・既習とのズレ
- (2)教科書をアレンジする…主体的で対話的で深い学びを意識しながら行う
- (3)ズレが生まれる導入…限定的・段階的・既習との比較・きまりを仕込む等
- (4)まとめ・ふりかえり…自分の考えがどうか変わったのか等、自分の頭で考えたことを書く

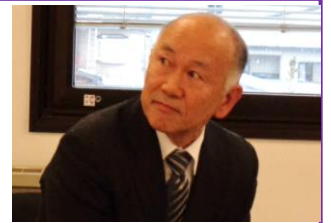


<参加者の声> ・子どもたちが、あれ？もしかしたらこうかも？…と、意欲を持ち主体的に考え始める瞬間を見ることができた。「考えたい」と思わせる課題の大切さを改めて感じた。

- ・教科書の内容をアレンジして、ズレが生まれるしかけを作る提案は、とても参考になった。
- ・課題提示の仕方はいつも悩んでいた。いくつかの例を挙げて説明して頂き、参考になった。
- ・子どもたちが夢中になって、課題を解決しようと取り組む姿を見て羨ましいと思った。私もこんな授業をしたい。子どもたちを楽しませたい。そのために教材研究を頑張ろうと思った。
- ・考えのアイデアは子どもの手柄となるように引き出す言葉かけや、問いを引き出す課題提示の仕方等多くを学んだ。数字の美しさ、不思議さを感じ得た子どもたちの表情が印象的だった。

4時から夢塾

「雑草という名の植物はない」



藤ノ木昌史先生

第16回は1月16日(火)に、上北谷小学校の藤ノ木昌史校長先生から、「植物栽培から教育を考えてみた」の指導を頂いた。内容を簡単に記す。

1 私と植物との関わり …自身の名前から「藤の花」への思いがある。

- ・趣味は草むしり…植物が色々なことを教えてくれる。
- ・大学は理科を専攻…植物学で教授から「300種を覚えなさい」の指導を受けた。100種を覚えたら色んなことがわかってきて楽しくなった。牧野富太郎博士の植物図鑑をよく見た。
- ・朝ドラ「らんまん」で「雑草という名の植物はない」…一つ一つの個性を認めるべきだ。

2 植物を見たり育てたりしている中で思う人育て (個性や特徴が見えてくる)

① 各地の素敵な花畑…ひまわり(津南) 菜の花(福島潟)等→群生の美しさ。

- ・花畑の群生…集団の美に圧倒される→規律・整っている美しさ。
- ・家でチューリップ300 全て赤の球根→全てが美しく咲くわけではない。多くの中で見過ごされているもの→一つ一つの命が大切にされているのか。
- ・花畑で踏みつぶされたり、切られたりした花を見て→自分は“集団の美”の中で、はみ出している子どもをないがしろにしていたのではないか。



② みんな個性的な植物…手間のかからない花・かかる花→教育と同じだ。

- ・オオイヌノフグリ・ネモフィラは、そっくりだが花びらの数が違う。
- ・浜大根となずな…よく見ると可愛らしい花→目立たなくても、きらりと光る子どもがいる。
- ・胡蝶蘭…強い光を当てると枯れる→目立たない子どもに役割を与えてストレスになった。
- ・今、学校では、一人一人の個性を大切にしたい教育を実践している。
- ・植物も個性があって、育て方、付き合い方が少しずつ違う。子どもと同じ。



③ タイミングと加減の大切さ…種蒔き・摘心・脇芽かき・水やり・追肥

- ・人育ては手をかけすぎてもダメ。その人にあうタイミング・加減が大事。

④ 花農家の知識と技…花を育てる確かなノウハウがある。

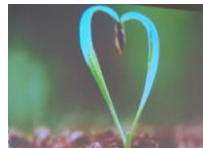
- ・アザレアを上手く育てられない。花屋には、管理のノウハウがある。



原色牧野日本植物図鑑

3 教育は楽しい 美しい (子どもたちの成長を日々実感している)

- ・一人一人を大切にすることは難しいが、意識していくことで子どもたちは、いつかきれいな花を咲かせてくれる。期待をしていきたい。



<参加者の声>

- ・「雑草という植物はない」から、全ての命を大切にしていかなければと思った。
- ・植物栽培というフィルターを通し、子どもを想う気持ちが十分に伝わってきた。当たり前をやり続ける。意識して続けることが心に残った。一人一人を大切にしたい気持ちを新たにしたい。
- ・植物に向かうと無心になり、気持ちが整理される。植物を通して考える教育のあり方に共感。
- ・集団と個の関係、個性の尊さについて植物を通して学んだ。全てが人を育てることに通じる。
- ・見る気を持たないと気付かずに見逃してしまう。明日からの生活に取り入れたいと思った。
- ・子どもには愛情と手間をかけることが大事であり、それを惜しんではならない。頑張ります。
- ・教育は一人一人にどう関わるかを改めて感じて、森を見ながら一本一本の木を見ていきたい。

1月



科学教育部



《今月の1枚》
見附中校舎と守門岳

【今年の干支は「辰」】

今年の干支は「辰」です。「辰」つまり「龍」のことです。昨年末に見附市文化ホール「アルカディア」で、見附市に伝わる「草薙龍」伝説をモチーフにした開館 30 周年記念ミュージカル「アツタ外伝」が上演されました。見附市と「龍」の関係は深いです。そこで、「龍」について紹介します。

龍の形の特徴を示す三停九似説

龍は、広辞苑によると想像上の動物です。
中国で龍のイメージは、「三停九似説」に基づいているといわれています。

○「三停」とは、龍のプロポーションを示します。
首から腕の付け根、腕の付け根から腰、腰から尾までの三つの部分の長さがそれぞれ等しいことを意味しています。この三つは、天上、海中、地底の三界に通じるとされます。

○「九似」とは？
龍の九つの部位が、それぞれ他の動物に似ていることを言います。

1. 角は鹿
2. 耳は牛
3. 頭は駝（駱駝）
4. 目は兔
5. 鱗（うろこ）は鯉
6. 爪は鷹
7. 掌（たなごころ）は虎
8. 腹は蟹（蛟：みずち）
9. 項（うなじ）は蛇



建仁寺の「双竜図」

○「龍のかたちの特徴」
龍のかたちには、下記の特徴があるとされています。

- ・背中に81枚の鱗がある
- ・口のそばに髯髭が生えている
- ・喉の下に逆鱗（げきりん：逆さに生えた）鱗がある
- ・声は銅盤（銅製のたらい）を打った時の音に似ている
- ・顎の下に輝く珠がある
- ・頭の上に山の形をした博山（はくさん 尺木（せきぼく）ともいう）がある

龍は想像上の動物あることから、「三停九似説」や「龍の特徴」は、人間の創造力のなせる技です。今年も科学を通して、子どもたちに創造力を育てていきましょう。

【参考】「龍の謂れとかたち 龍のかたちの特徴を示す三停九似説」

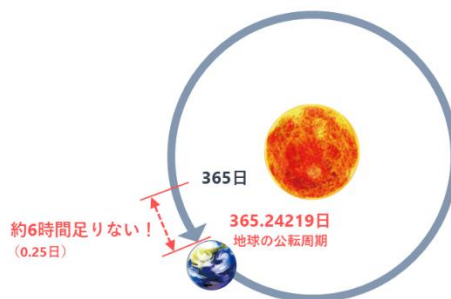
<https://www.ryuss2.pvsa.mmr.s.jp/ryu-iware/ryu-santeikyuj.html>（最終閲覧 2024.1.12）

科学の公園

うるう年は「必ず」4年に一度！とは限らない？

見附市立新潟小学校 野村 恭一

今年2024年は、うるう年です。うるう年といえば、4年に一度、2月29日がある年と、認識している方が多いと思います。私たちは、普段なにげなく「1日は24時間」とか「1年は365日」などと言いますが、実は、1年はピッタリ365日ではありません。実際は、地球が太陽を1周するのに約365.24219日かかると言われています。つまり単純に1年を365日とすると、1年に「0.24219日」ずつズレてしまうので、どこかでそのズレを調整する必要があります。この「0.24219日」を4回分集めると約1日になるので、4年に一度、1日増やすことで、ズレを修正することにしました。それが、うるう年です。



【ルール1】西暦が4で割り切れる年を、うるう年とする。

これを4年に1回続けていくと、100年で25回になります。つまり、100年で25日増やすことになっていきますが、実際にズレるのは、 $0.24219 \times 100 = 24.219$ (日) 25日増やしたら増やし過ぎになってしまいます。ですので、ひとまず100年で24回のうるう年にするため、**100年に一度、うるう年ではない年をつくることにしました。**

【ルール2】西暦が100で割り切れる年は、うるう年としない。

100年で24日増やしたら「0.219日」のズレになるので、同じルールを400年続けると 0.219×4 で「0.876日」ズレることになります。このようにまた少しずつズレてきてしまうので、0.876日を約1日と考えて、**400年に一度うるう年を復活させ、1日増やすことにしました。**

【ルール3】西暦が400で割り切れる年は、うるう年とする。

このようにすると、400年間に起きる時間のズレは0.124日 (2時間54分50秒) なので、私たちが生きている間は、ほとんど気にしなくもよいレベルになります。

これがうるう年のルールです。まとめると、**400年のうちに97回うるう年をつくれればよい**という計算になります。

今から20年以上も前になりますが、このルールに従うと2000年は、

- (1) 西暦が4で割り切れる年なので、普通に考えればうるう年ですが・・・
- (2) 西暦が100で割り切れる年なので、うるう年ではないのですが・・・
- (3) 西暦が400で割り切れる年なので、うるう年でした！

という、400年に一度の「うるう年が復活した年」、うるう年の例外の例外の適応によって、「うるう年」だったのです。

ちなみに、以上のルールで考えると、1900年や2100年、2200年、2300年はうるう年ではありません。また、400年に一度の特殊な年が次に来るのは、2400年。ずいぶん先となります。

【参考】つながるデザイン研究所 <https://tsunagaru-design.jp/>
「2024年はうるう年！意外と知らない由来やルールをご紹介します」

当センター科学教育部兼任所員の新潟小野村恭一先生から、ご寄稿いただきました。